



案内役のウォンバット君

いけだ かんきょう レポート 2019

レジ袋有料化に向けたマイバッグキャンペーン
を実施しました。

シェアサイクルの実証実験を
実施しました。



文化財公開ウォーキングを
実施しました。

池 田 市



かんきょうレポート QR コード

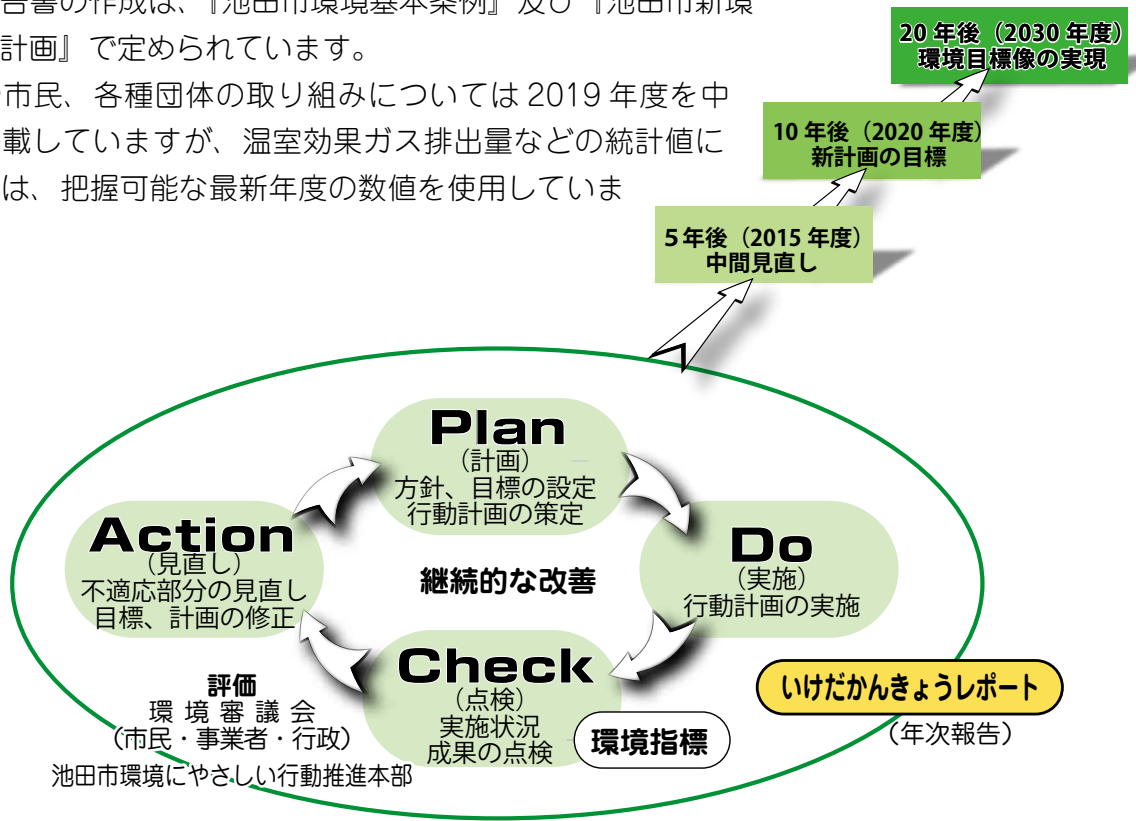
いけだかんきょうレポートとは

「いけだかんきょうレポート」は、池田市内における環境に関する取り組みを報告するものです。

多くの方々に市内の取り組みを知っていただくとともに、もっとたくさんの方々に環境に関する取り組みを広めること、また『池田市新環境基本計画』の進み具合を見直して、より良い取り組みにつなげることなどを目的に、毎年発行しています。

※この報告書の作成は、『池田市環境基本条例』及び『池田市新環境基本計画』で定められています。

※行政や市民、各種団体の取り組みについては2019年度を中心に記載していますが、温室効果ガス排出量などの統計値については、把握可能な最新年度の数値を使用しています。



～ いけだかんきょうレポート 2019 目次 ～

はじめに	-----	1
環境基本条例について	-----	2
Ⅰ. 新環境基本計画の概要	-----	3
Ⅱ. 各分野の現状と主な取り組み	-----	5
1. とともに学びあい、行動しよう	-----	5
2. 未来の子どもたちのために地球温暖化を防ごう	-----	9
3. 環境にやさしい循環型都市をめざそう	-----	12
4. 豊かな自然を守り、育てよう	-----	16
5. 人にやさしいまちづくりを進めよう	-----	18
Ⅲ. 環境指標	-----	20

環境基本条例について

2016年6月、新環境基本計画や環境に関わる各種取り組みの根幹となる『池田市環境基本条例』が制定されました。この条例は、環境の保全及び創造についての基本理念、市、市民及び事業者の責務並びに施策の基本的事項を定め、その施策を総合的かつ計画的に推進することにより、健康で文化的な生活を営むことのできる良好な環境を確保し、地球環境の保全に貢献することを目的としています。

池田市環境基本条例の骨子（抜粋）		
基本理念		<ol style="list-style-type: none"> 1. 市・市民・事業者が環境に関わる問題について知り、参画と協働のもとに取り組む。 2. 地球環境の保全に貢献する。 3. 環境への負荷が少なく持続的に発展することが可能な社会の実現に貢献する。 4. 人と自然との共生を図る。 5. 健康で文化的な生活を営むことのできる生活環境を将来の世代へ継承していく。
責務	市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境の保全・創造に関する施策の策定・実施。 ・ 公共事業における環境の保全・創造への配慮、環境負荷の低減。 ・ 必要な体制整備や財政上の措置。 ・ 国・地方公共団体、その他国内外の公的機関との協力による施策の推進。
	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活における環境への負荷の低減。 ・ 市が実施する施策への積極的参画や協力。 ・ 市民が相互に、又は市や事業者と協働して地球環境の保全のための活動に取り組む。
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業活動に伴う公害の防止や環境への負荷の低減。 ・ 市が実施する施策への積極的参画や協力。 ・ 市及び市民と協働して地球環境の保全のための活動に取り組む。

池田市例規集
 トップページ
 にアクセス
 できます。→



『池田市新環境基本計画』では、「今日の目標を明日の当たり前」をキャッチフレーズに、5つの環境目標像を設定しています。



※ユニバーサルデザインとは、年齢・性別・人種・障がいの有無等に関わらず、多様な人々が利用することのできる製品や環境、計画及びサービスの設計をいいます。

環境目標像の実現に向けた取り組みの体系として、5つの分野及び各分野において施策の柱と重点施策を設定しています。

「環境にやさしいまち池田」の実現

省エネ・新エネに関する分野

2 「未来の子どもたちのために地球温暖化を防ごう」

- ① 省エネ社会の実現による温室効果ガスの削減
- ② 新エネルギーの普及促進による温暖化の防止
- ③ エネルギー効率の良いまちづくり

水環境やごみに関する分野

3 「環境にやさしい循環型都市をめざそう」

- ① ごみゼロ社会の推進
- ② 水循環の保全

自然に関する分野

4 「豊かな自然を守り、育てよう」

- ① 身近なみどりの保全と創造
- ② 五月山のみどりの保全と活用
- ③ 水辺の保全と活用
- ④ 生物多様性の保全

文化や福祉、健康に暮らせる環境に関する分野

5 「人にやさしいまちづくりを進めよう」

- ① 池田らしい文化・景観の保全と創出
- ② だれもがいきいきと暮らせるまちづくり
- ③ 健康で安心して暮らせるまちづくり

基礎となる分野

1 「ともに学びあい、行動しよう」

- ① 市民・事業者の取り組みの推進
- ② 学校園における取り組みの推進
- ③ パートナーシップによる行動推進
- ④ 広域連携による環境保全活動の推進

○ : 取り組みの柱

◎ : うち、重点的に取り組むもの

II. 各分野の現状と 主な取り組み

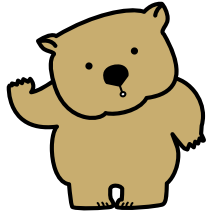
ここでは、『池田市新環境基本計画』で設定した環境を構成する分野（4ページの樹木の図）ごとに、環境の現状を把握するためのデータや取り組み内容を掲載します。

1. とともに**学び**あい、**行動**しよう

●重点的な取り組み「パートナーシップによる行動推進」

池田市では、様々な方々とのパートナーシップ体制のもと、環境への取り組みを進めています。

2019年度も環境イベントや大学、NPO、地域の方々の協力のもと実施している出前授業など、市民・事業者と連携した取り組みを進めました。



●この分野での指標や取り組み

例年掲載しております「池田市エコ活動報告会」については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止、「環境学習研究会」については書面にて開催とさせていただきました。

2019
NEW

池田市環境学習基本方針の達成状況

2015年3月に策定した「池田市環境学習基本方針」では「身近な自然や社会への理解を持ち、多様な視点から考え、行動できる人・地域づくり」を目標像とし、2030年度を目標年次とし、取組を進めていく中でそれらの効果が発現されているかを評価するために7つの達成目標を設定しています。

2019年度はイベントや講座数が増加し、各小学校においても環境学習の出前授業が実施され、目標達成に一步近づきました。

池田市環境学習基本方針の達成目標

目標指標	達成目標 (2030年度)	達成状況 (2019年度)
複数の時間・単元を活用した環境学習の実施数	全小学校で 学年あたり3回	市内の小学校では45種類の出前授業や施設見学等が計101回行われ、学年あたり3回以上環境学習を行った学年は15学年となりました。
PTAや各種地域団体と連携した実践活動数	各校1件	3校で9学年実施されました。
一般向け講習・プログラム実施数、参加者数	年10回 延べ300人	エコミュージアムでは年間34回の講座・プログラムを開催し、参加者数は953人でした。
教員向け研修会の実施回数	年1回	2019年8月29日に教職員研修会を実施し、市内小中学校教員45名が参加しました。
実施者向け講習会、情報交換会等の実施回数	年1回	大学生の出前授業実施者に向けた研修、教員や一般市民を対象とした「環境学習交流会」の計2回を行い、24名が参加しました。
環境学習に関する相談対応学年数	年30件	エコミュージアムへの相談は2件でした。 今後は学校に対し支援体制についての説明と広報を行うとともに、活用された教員の方からの発信を促すことで利用の増加をめざします。
環境学習研究会の開催数	年1回	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できず。資料配布のみを行い、情報共有を図りました。

凡例  : 新しい記事

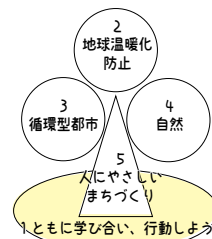
池田市地域まるごと学習教職員用ガイドブック

(環境政策課)

昨年度に引き続き、環境学習に関する情報を掲載した冊子(池田市地域まるごと学習 教職員用ガイドブック)を作成、市内全小学校に配布しました。

地域資源を小学校区別にまとめたマップや、各種団体が用意した出前授業、教職員の取り組み事例などを紹介しています。

冊子に掲載している情報は、Webサイト「池田市地域まるごと環境学習」でも見ることができます。



Webサイト「池田市地域まるごと環境学習」にアクセスできます↓



↑「池田市地域まるごと環境学習 地域資源マップ」にアクセスできます
<http://marukan.ikedate-ecomuseum.org/archives/sozaitype/map>

2019 NEW 地域資源マップの完成

(環境政策課)

市内小学校の教職員への支援を目的とした、地域資源マップが10校区分完成しました。

地域資源マップは、調査員が市内各所を徒歩で調査し、地域の特色や歴史的な背景などを勘案し抽出しています。

生物、植物、歴史、文化などの生活をとりにくく自然環境・社会環境に関する情報を校区ごとに発信しており、地域と連携した教材として各教科単元等に活用することができます。

2019 NEW 大学生と考える環境の出前授業

(神田小学校、関西大学、伊勢屋テック株式会社、株式会社阪急デリカ、株式会社伏尾の鮎茶屋 不死王閣、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団、NPO法人いけだエコスタッフ、池田市)

関西大学の学生が講師となり「池田と神田の環境について考えよう」をテーマとした出前授業を、神田小学校5年生2クラス(75人)を対象に、半年にわたって5回の授業を実施しました。

地球温暖化の現状について学び、池田市ではどのような取り組みが行われているのかを知るために、池田市環境トップランナー企業の方に直接取材を行いました。

企業での取り組みを知ったうえで、自分たちは暮らしの中で環境のためにどのようなことができるかを提案し、それらを実践することで、これからの池田の環境がどのように変わっていくかについて考えました。

全5回の授業を通して、池田市や企業、そしてそれぞれの行動がこれからの池田の環境を創っていくことを学び、考える機会となりました。



いけだエコ自由研究フェア 2019

(池田市、池田市教育委員会、学校法人聖母被昇天学院 アサンプション国際中学校高等学校 自然科学部、関西大学中等部高等部 科学同好会、大阪ECO動物海洋専門学校、大阪ガス㈱、関西電力㈱、㈱阪急デリカアイ、パナソニック㈱ライフソリューションズ社、国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター、生活協同組合コープこうべ、NPO 細河みどりの郷、NPO 教育支援協会大阪、いけだ地域栄養士会 葉菜の会、池田市上下水道部、池田市業務センター、NPO いけだエコスタッフ【資材・物品提供】㈱銭屋アルミニウム製作所、㈱リコー 池田事業所、とよす㈱、日清食品㈱、トヨタ車体㈱、豊田鉄工㈱、国立研究開発法人 国立環境研究所、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学観測部 ダジックチーム)

市内の小中学生やその保護者を対象に2019年7月26・27日の2日間に「いけだエコ自由研究フェア2019」を開催し、303名が来場されました。

16の学校・企業・研究機関・団体にブース出展して頂き、クイズ、科学実験、エネルギー発電、装着体験、モビリティ試乗体験、調理実習など例年とは違った体験コーナーを増やし、多様な観点から地球環境問題に関心を持つきっかけ作りを行うことができました。

また、今回は池田市教育委員会による、理科・社会を中心とした自由研究のテーマや実験方法について相談できる夏休みの自由研究相談会も同時開催しました。



中学校の職場体験学習

(池田中学校、渋谷中学校、エコミュージアム)

エコミュージアムにおいて、2019年10月16日～18日の3日間に渋谷中学校2年生6名、2019年11月6日～8日の3日間に池田中学校2年生5名の職場体験学習を受け入れました。

リユースショップにおいて、実習期間中にフェアがありディスプレイ案から値付け、商品陳列、レジ接客対応、寄付品の受付・仕分けを行ってもらいました。

また、廃油の処理も経験してもらい、3Rについてより関心を深め実践する機会となりました。



環境学習交流会

(環境政策課)

2020年1月19日、環境学習取組への理解を深めていただくことを目的に、講師として国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センターより安藤尚功氏をお招きし、燃料電池のしくみを解説しながら、実際に燃料電池を組み立てて電気を作る実験「燃料電池のしくみ～みんなで燃料電池を作ろう～」を開催しました。



環境に関する啓発・イベント等

(エコミュージアム)

エコミュージアムにおいて、近隣の市町や団体と連携した取り組みを実施しました。

●野菜市

食の地産地消を促進するため、池田市内や近隣でとれた野菜等を販売しました。

●交流イベント

多世代交流をコンセプトにもつ「いけだんち」とエコミュージアムがコラボし「いけだんちカフェ」を開催しました。菜の花プロジェクトみのお代表の神前氏を迎え、「私たちの食卓に食べ物が届くまでとその後について」の話題を提供してもらい、実際に野菜を試食しながら参加者同士の交流意見交換を行いました。

●環境イベント

手作り作家による作品展示と販売会「ぷちま」を開催しました。作家のそれぞれのエコへの取り組みなどを紹介するとともに、使わなくなったものや余ったものの活用を推進するイベントとなりました。

●出前講座

高齢者のコミュニケーションづくりのきっかけとなるカフェサロン「ウッホ」にて、エコミュージアムでも人気の高い講座を行いました。

●イベントへの参加

トアエル主催「トアエル・マーケット」にてリユース品を活用したわなげゲームを実施し、子どもから大人まで楽しみながらリユースの重要性を体験していただきました。



野菜市



出前講座

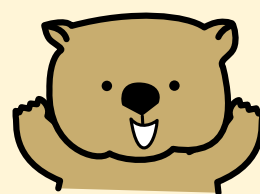


イベントへの参加

次のステップに向けて

今年度は、地域資源マップの完成など「池田市環境学習基本方針」に基づいた取り組みがより一層進展しました。引き続き、行政と学校や関連団体等との連携を深めながら、パートナーシップによる行動推進の強化を図ります。

一方で、例年行っていたイベントについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止したものもありました。来年度はオンライン形式で開催するなど柔軟に対応してまいります。

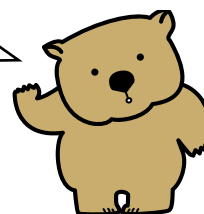


2. 未来の子どもたちのために地球温暖化を防ごう

●重点的な取り組み「エネルギー効率の良いまちづくり」

『池田市新環境基本計画』では、「エネルギー効率の良いまちづくり」を重点的な取り組みとしています。

2019年度も、前年度に引き続き、太陽光発電システムや家庭用燃料電池システム等の環境にやさしい設備の設置費補助を行い、エネルギー効率の良いまちづくりの推進に努めました。



●この分野での指標や取り組み

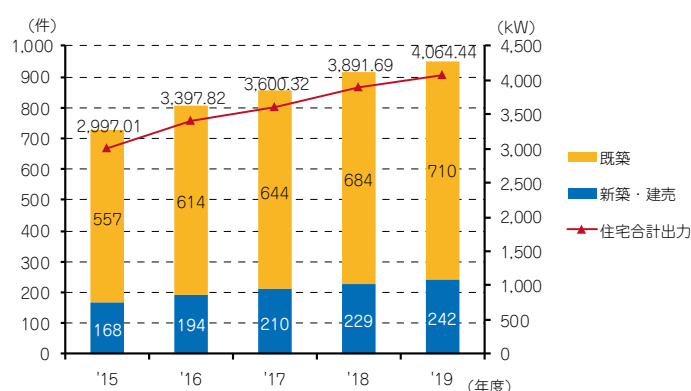
太陽光発電システム設置費補助（住宅用）

（環境政策課）

住宅用太陽光発電システムの設置に対して出力1kWあたり20,000円、上限100,000円を補助しています。

2019年度は39件、合計172.75kWの太陽光発電システムが設置され、これは1年間で約92.4トンの二酸化炭素削減効果があると見込まれます。

住宅用太陽光発電システム補助件数（累積）



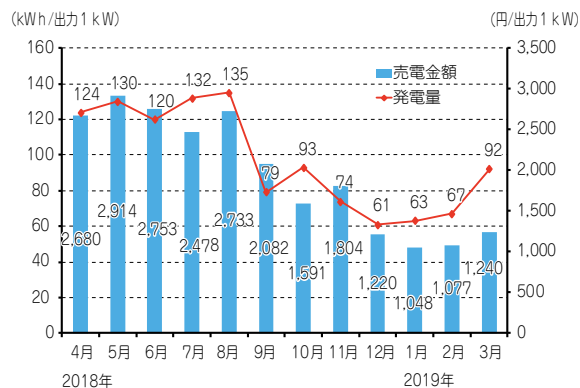
使用状況報告書による発電量および売電金額

太陽光発電システム設置費補助（住宅用）の利用者には、使用状況報告書の提出を義務付けています。

2018年度の数値を集計した結果、1家庭の設置設備における出力1kWあたりの年間平均発電量は98kWhとなりました。

また、1家庭の設置設備における出力1kWあたりの年間平均売電額は1,968円でした。

売電金額および発電量（平均）



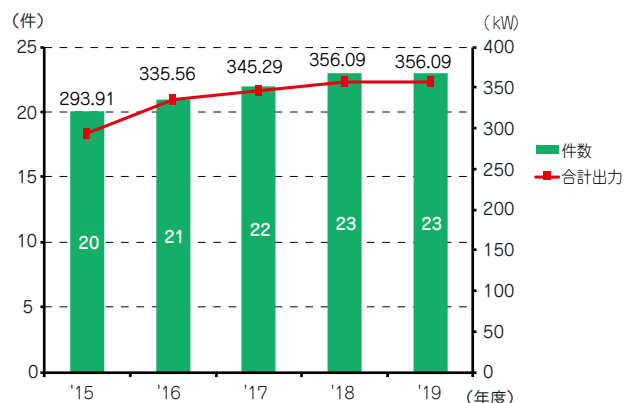
太陽光発電システム設置費補助（非住宅用）

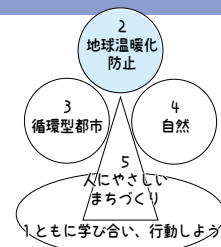
（環境政策課）

事業所や工場、集合住宅の共用部分など非住宅用の太陽光発電システムの設置に対して、出力1kWあたり20,000円で上限200,000円を補助しています。

2019年度の交付件数は0件でした。

非住宅用太陽光発電システム補助件数（累積）





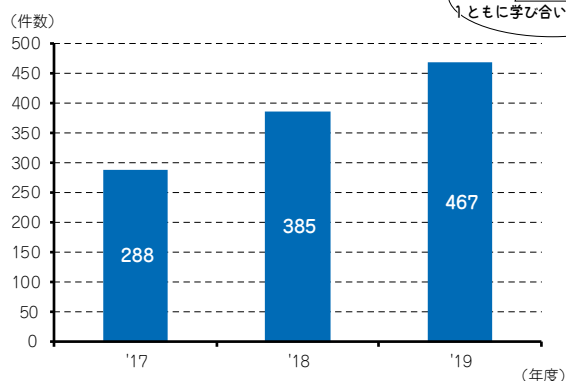
家庭用燃料電池システム設置費補助

(環境政策課)

エネルギー効率の良いまちづくりを目指し、家庭用燃料電池システムの設置に対して1台あたり50,000円を補助しています。

2019年度は、82件に補助金を交付しました。

家庭用燃料電池システム設置費補助件数(累積)



補助制度に関するアンケート

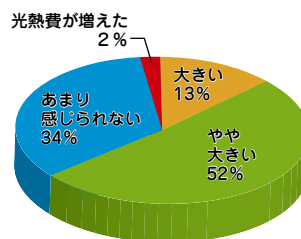
(環境政策課)

住宅用太陽光発電システム及び家庭用燃料電池システムの設置費補助の利用者には、補助制度に関するアンケートの回答を義務付けています。

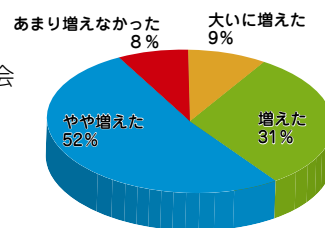
2019年度の補助利用者の回答を集計した結果、上記の補助制度を利用することによって、光熱費削減効果が大きいと感じている回答者は全体の65%、環境について考える機会が増加した回答者は全体の約92%であることがわかりました。

制度についてのご意見などを頂いた自由記述欄では「地球環境に少しでも役に立つことを考えて生活したいため、補助制度はありがたい。」「補助金のおかげで導入しやすかった。」などのお言葉や、今後の広報活動や補助対象機器の充実を求めご意見を頂きました。

Q. システムの設置による光熱費削減効果はいかがですか？



Q. 補助制度を利用し、環境について考える機会が増えましたか？



市民共同発電所の発電

(池田新工ネ推進協議会、環境政策課)

池田新工ネ推進協議会では、池田市と協働で、市民・事業者等からの寄付を財源に市民共同発電所の設置を進めています。

現在は5機の市民共同発電所(合計33.1kW)が稼動しており、これは1年間で約23.79トンの二酸化炭素削減効果があると見込まれます。



池田・府市合同庁舎のエネルギー使用量

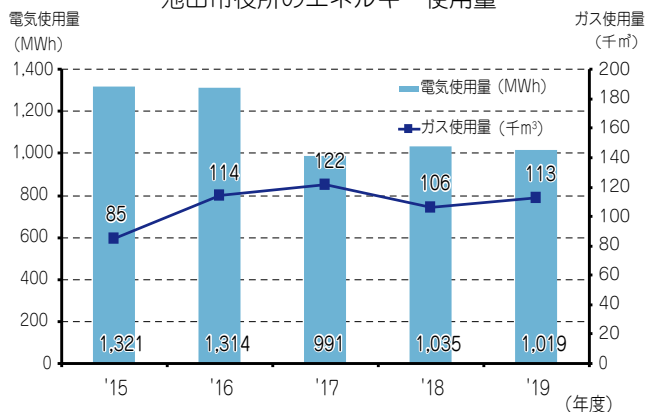
(池田市)

2019年度も池田市地球温暖化防止実行計画に基づき、庁舎の省エネルギー化に努めました。

前年度と比較して電気使用量は、15,798kWh減の1,019,600kWhに、ガス使用量は7,830m³増の113,790m³となりました。

外気温や来庁者数などにも左右されますが、今後もエネルギー使用量削減への取り組みに努めてまいります。

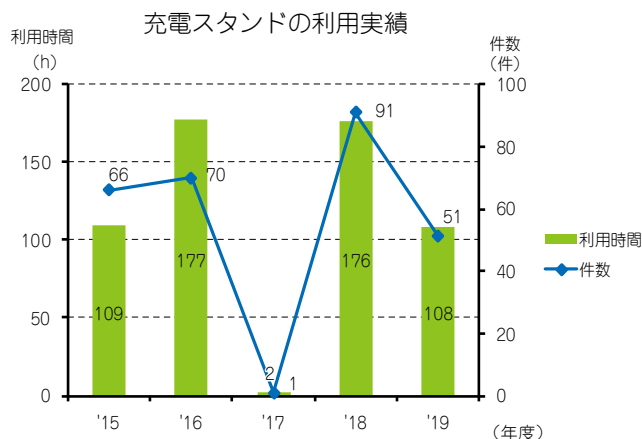
池田市役所のエネルギー使用量



電気自動車用充電スタンド (環境政策課)

電気自動車の普及や多様なエネルギー源による車両の確保を目的として、池田・府市合同庁舎駐車場へ電気自動車用充電スタンドを設置しています。充電スタンドは事前予約制ですが、無料で利用いただけます。

2019年度は51件、約108時間の利用となりました。



(※ 2017年度は庁舎工事によりスタンドの使用を長期停止)

2019 NEW 池田市シェアサイクル実証実験

(OpenStreet 株式会社、交通道路課)

池田市では企業と連携し、地域活性化や観光振興等に活用できる新たな交通システムとして、シェアサイクルの有効性や課題について検証することを目的とした実証実験を行っています。

利用者はスマートフォンから、自転車の利用予約から決済までの手続きを簡単に行うことができ、「ステーション」(右図参照)であればどこでも自転車を貸出返却することが可能です。

2019年度末時点で市内11ヶ所に「ステーション」を設置し、年間の累計利用回数は3,096回、月平均258回の利用がありました。

今後も利用動向を踏まえ、「ステーション」の増設など、移動手段の確保に向けて検討していきます。



次のステップに向けて

2015年の「パリ協定」採択を受け、日本は2030年度までに2013年度比で温室効果ガスの排出量26.0%削減をめざしています。

地球温暖化・エネルギー問題を取り巻く状況は刻々と変わりつつあります。池田市としても、社会情勢を注視しながら、市民の方にとってより役立つ形で温暖化防止施策の立案・推進に引き続き努めていきます。

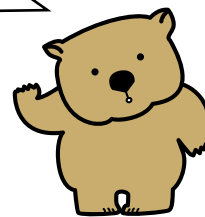


3. 環境にやさしい循環型都市をめざそう

●重点的な取り組み「ごみゼロ社会の推進」

池田市では、ごみ排出量 2008 年度比 20%削減を目指して各種ごみ減量施策に取り組んでいます。

2019 年度も指定袋制度、集団回収補助制度などを引き続き実施するとともに、各種イベントでの啓発や市内小学校への出前授業などを行い、ごみの減量に努めました。



●この分野での指標や取り組み

小型家電回収ボックスの設置 (環境政策課)

ごみの減量及び金・銀・銅・レアメタルなど有用な金属のリサイクル率の向上を目的に、池田市内 3ヶ所(市役所、エコミュージアム、石橋プラザ)に専用の回収ボックスを設置し、使用済み小型家電の拠点回収を実施しました。

2019 年度は約 941kg の小型家電を回収しました。

※本事業は 2020 年 9 月末に終了しました。



2019 NEW マイバッグキャンペーン

(環境政策課、池田市レジ袋削減等 3R 推進協議会)

G20 大阪サミットでも取り上げられた「海洋プラスチックごみ問題」への身近な対策のひとつとして、「お買い物には、マイバッグを!!」をキャッチフレーズに、2019 年 12 月 11 日に阪急池田駅及び石橋阪大前駅周辺において、池田市レジ袋削減等 3R 推進協議会から提供されたエコバッグを市民向けに配布し、レジ袋削減及びマイバッグ持参促進を呼びかけました。



水銀含有廃棄物回収ボックスの設置

(環境政策課)

「水銀に関する水俣条約」の採択に伴う関係法令の改正・施行を受け、本市においても、蛍光灯や電池類などの水銀含有廃棄物の適正な処理を促進するため、市役所 1 階で専用の回収ボックスによる拠点回収を実施しました。

回収した水銀含有廃棄物は、ダンボールやペール缶で密閉し、専用の工場へ運んだ後、水銀を取り出して再利用するなど、適正な処理をしています。

※本事業は 2020 年 9 月末に終了しました。

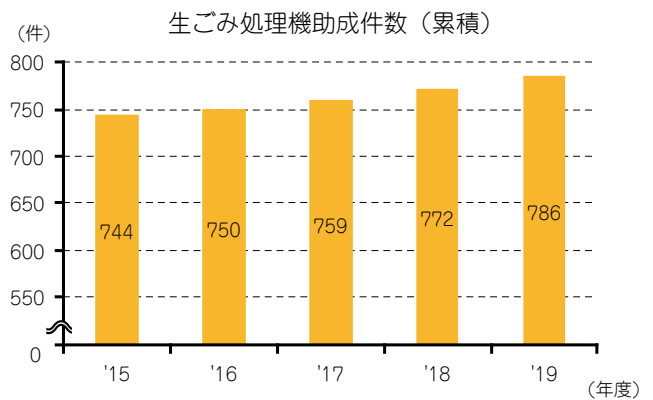


生ごみ処理機購入助成

(環境政策課)

ごみの減量化と資源化を推進するため、電気式生ごみ処理機の購入費用の 1/2 に相当する額(上限 30,000 円)を助成しています。

2019 年度は 14 件、合計 302,000 円を交付しました。



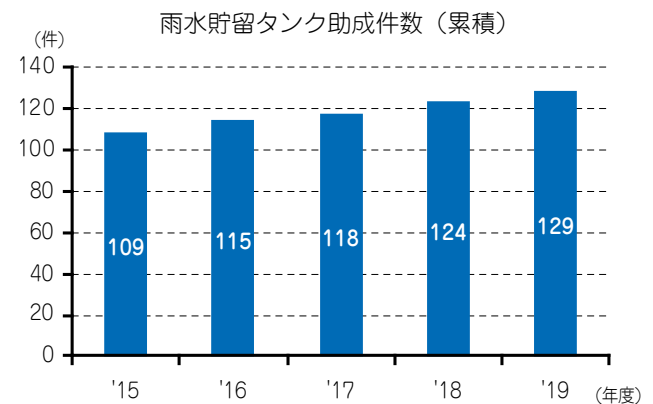
雨水貯留タンク設置費補助

(環境政策課)

雨水貯留タンクを設置し、花や植木の水やりや庭への散水など雨水の有効利用に取り組まれる方に購入費用の 1/2 に相当する額(上限 30,000 円)を助成しています。

2019 年度は 5 件、合計容量 680 リットルが設置されました。

2009 年度の制度開始から 2019 年度までの間に合計容量 22,814 リットル分の設置があり、雨水を有効に利用していただいています。

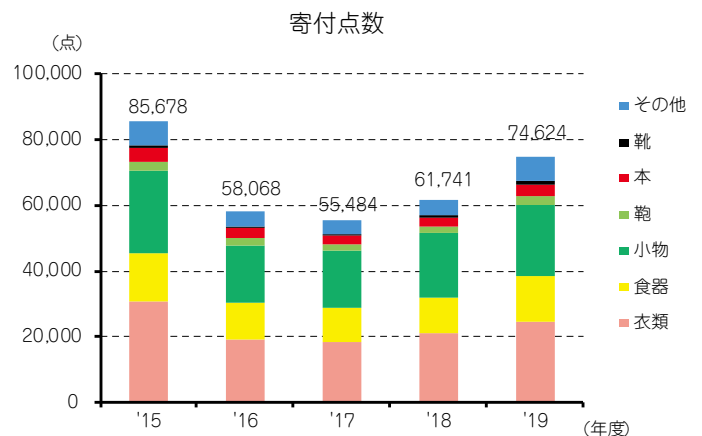


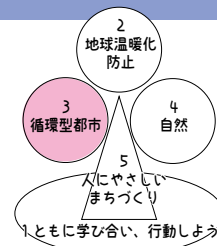
衣類等の寄付

(エコミュージアム、クルル石橋、環境政策課)

2019 年度にエコミュージアム及びクルル石橋で寄付された衣類・食器等のリユース品は 74,624 点でした。そのうち衣類は 24,524 点で、これは 92.2 トンの二酸化炭素(CO₂)排出を削減したことになります。寄付品はエコミュージアムで販売し、その収益を市民共同発電所の設置に活用しています。

※現在、エコミュージアムでの寄付受付は毎週水・日曜日のみ。クルル石橋での寄付受付は行っていません。





使用済み天ぷら油の回収

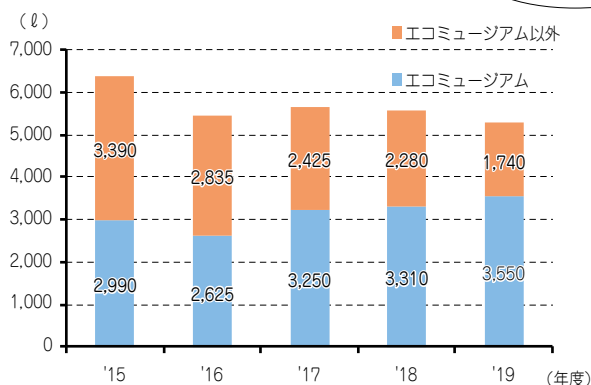
(エコミュージアム、市内小学校 PTA、
阪急バス、環境政策課)

エコミュージアムでは開館時は常時、市内小学校 8 校では月 1 回 (3 月、8 月は除く) 使用済み天ぷら油の回収を行っています。

2019 年度に回収された使用済み天ぷら油は、5,290 リットルでした。

回収された天ぷら油は、BDF (バイオディーゼル燃料) にリサイクルしており、市内を走る阪急バスにも利用されています。

天ぷら油回収量

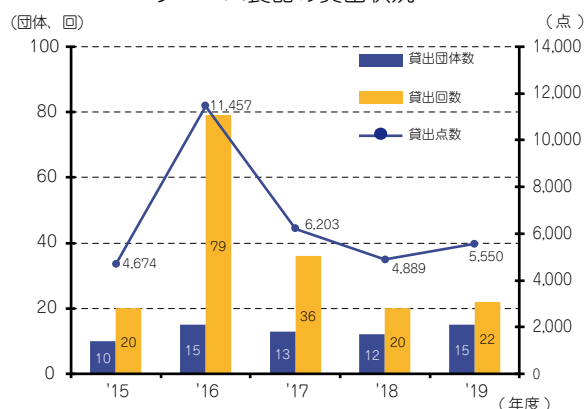


リユース食器の貸し出し (エコミュージアム)

エコミュージアムでは、市内及び近隣市で開催されるイベントで、リユース食器の貸し出しを行い、ごみの分別回収、排出削減の取り組みを行っています。

2019 年度の貸出団体数は 16 団体、貸出回数は 22 回、貸出点数はのべ 5,550 点になりました。

リユース食器の貸出状況



リユース食器のレンタルはエコミュージアムへお問い合わせください。

電話 072-752-7711

<http://ikeda-ecomuseum.org/rental.html>

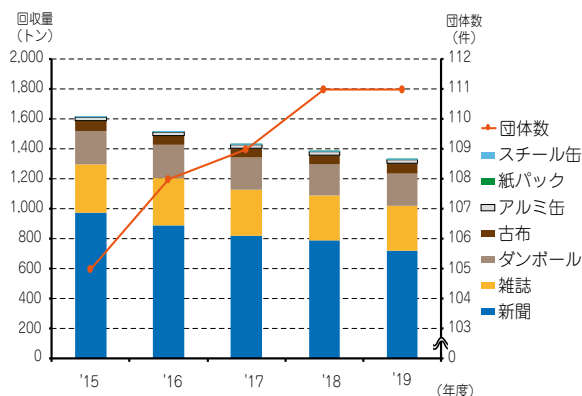
集団回収量

(環境政策課、集団回収団体)

再生可能な有価物を集団回収している団体に補助金を交付することで、ごみの減量化の推進とともに、団体育成やリサイクル意識の啓発を図っています。

2019 年度は、111 団体に補助金を交付し、約 1,331 トンの資源物が回収されました。

集団回収量と活動団体数



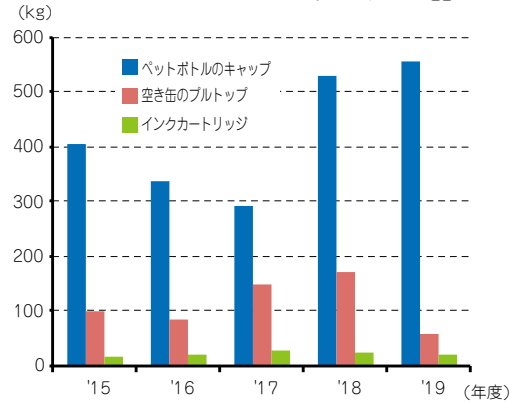
リサイクル品の各種回収

(エコミュージアム、池田市理容組合、東山作業所)

エコミュージアムでは諸団体と連携してリサイクル品の回収を行っています。ペットボトルキャップとインクカートリッジは東山作業所に回収・仕分けをしていただき、当該施設の事業費に、プルトップは大阪府理容組合に回収していただき、車いすの寄付事業に使われています。

2019年度はペットボトルキャップ 555kg、インクカートリッジ 20kg、プルトップ 60kg を回収しました。

エコミュージアムでのリサイクル品



プルトップ

回収したものは池田の理容組合がまとめてリサイクル業者へ引き渡しリサイクルされています。その引取り費用で車いすを購入し寄贈する活動が行われています。

ペットボトル・キャップ

回収したものは東山作業所にて仕分け・洗浄した後、リサイクル業者へ引き渡し、プランターなどにリサイクルされています。引取り費用は東山作業所の活動資金として活用されています。

インクカートリッジ

回収したものは東山作業所にて色分け・メーカー別に仕分けした後、リユース企業に引き渡されています。引取り費用は東山作業所の活動資金として活用されています。

多量排出事業者制度

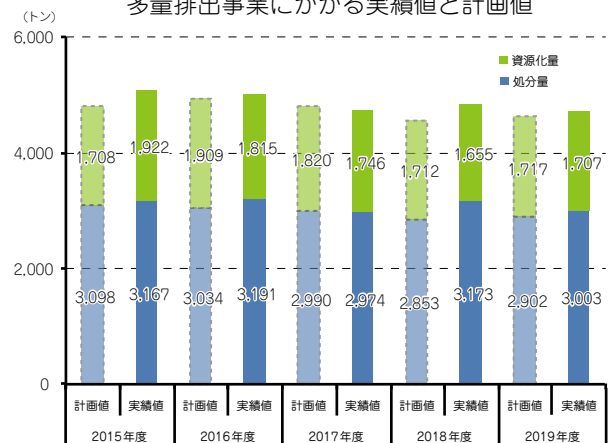
(環境政策課、多量排出事業者)

事業系ごみ(一般廃棄物)の排出量が月間3トンを超える事業者に対して、事業系一般廃棄物減量計画書の作成及び実績報告書の提出を義務付けています。

2019年度は、16社:2,902tの計画値が掲げられていましたが、実績としては16社:3,003tとなり、計画値を上回りました。

2020年度は、20社で計2,917トンの排出が計画されています。

多量排出事業にかかる実績値と計画値



打ち水大作戦 2019

(池田市、大阪府池田土木事務所)

ヒートアイランド現象の解消に役立つ、昔ながらの暮らしの知恵「打ち水」の効果を体験してもらうため、下水の高度処理水を使った打ち水イベントを実施しました。暑い日でしたが、親子連れの方が多数集まり、打ち水の効果を実感されました。



次のステップに向けて

ごみの減量化を進めるには、制度面および意識啓発の双方の取り組みが重要となります。

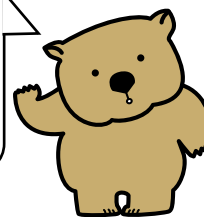
今後も、指定袋制度や分別収集などの取り組みを進めるとともに、ホームページや広報誌、イベント、出前授業などによる啓発に取り組んでいきます。



4. 豊かな自然を守り、育てよう

●重点的な取り組み「身近な緑の保全と創造」

池田の貴重な動植物を展示する自然展や、市民参加型の寄せ植えコンテストを行って啓発に努め、うるおいのあるまちづくりを進めました。

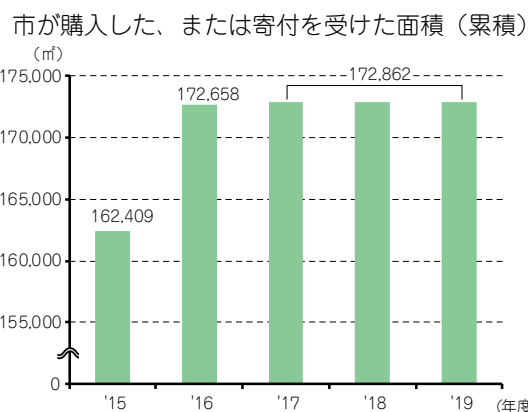


●この分野での指標や取り組み

さんろく 山麓・山間緑地保全区域内の土地の購入・寄付 (公園みどり課)

五月山の身近な自然を守るために取り組んでいます。

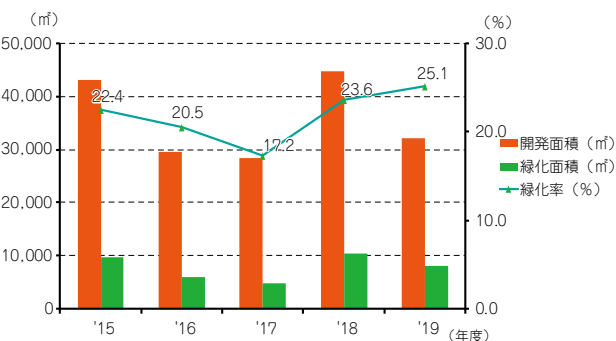
なお、2019年度の山麓・山間緑地保全区域内における市所有林の増減はありませんでした。



緑化協定、緑化計画 (公園みどり課)

市環境保全条例に基づき、開発行為等を行う土地で面積が1,000㎡を超えるものは緑化協定の締結を、1,000㎡以下で条例に該当するものは緑化計画書の提出を義務づけ、敷地面積の20%以上の緑地を設けるように指導しています。

緑化協定・緑化計画にもとづく緑化 (1,000㎡以上)



池田の自然展 (主催：環境政策課)

協力：池田植物同好会、池田・人と自然の会、五月山グリーンエコー、五月山自然観察インストラクター連絡会、細郷・里山会)

池田市の自然環境への関心を高め、生物多様性保全の重要性を普及・啓発することを目的として、2019年7月22日から26日にかけて市役所1階ロビーで「池田の自然展」を開催しました。市内で活動する団体の協力により、市内に生息する生物やその標本、団体の活動紹介などを展示しました。



寄せ植えコンテスト (池田市緑化推進委員会)

第8回寄せ植えコンテストを池田駅前公園で開催しました。300名の市民投票により金賞（市長賞）を含む6つの賞が決定しました。



花いっぱい運動

(公園みどり課、市内 25 市民団体)

市内の緑化のため、花苗、資材等の配布を行い、市民団体等と協働で緑や草花によるうるおいあるまちづくりを推進しています。



花いっぱい運動支援事業

(ほそごう・秦野・北豊島・くれは・五月丘・石橋南・神田の各地域コミュニティ推進協議会)

花苗や肥料などを地域コミュニティ推進協議会に提供し、地域や学校などで花を育て緑化を進めています。



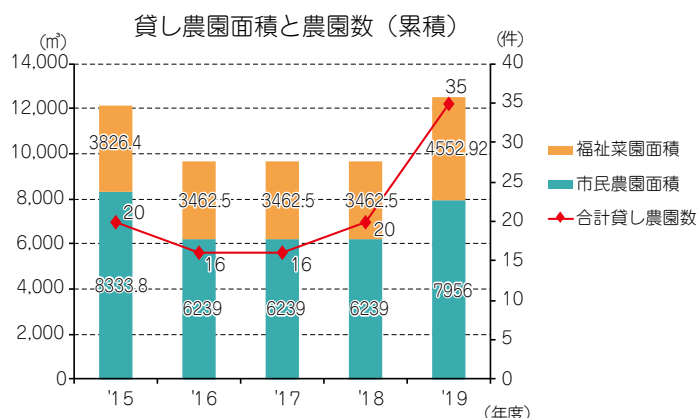
貸し農園

(農政課)

2005 年の法改正により、農家などが農業委員会の承認を得て農地を貸すことができるようになりました。

また、2018 年には都市農地貸借法の制定により、相続税納税猶予制度が適用されている農地も貸すことができるようになり、貸し農園とすることのできる農地が増加しました。

市内の市民農園をはじめとする貸し農園は、2019 年度は 35 件、12,509㎡となっています。



ピオトープ事業

(ほそごう地域コミュニティ推進協議会(細河地区))

細河地区の環境資源を活用し、地域の活性化を目的として、2007 年度の協議会立ち上げからピオトープで蛭の育成を始め、2018 年度から場所を変えてピオトープの整備事業を行っています。

2019 年度は、栗石で護岸を造成し、生物の多様性を図り、また、アイガモ育成のため、野生動物の侵入を防ぐ網を設置しました。



次のステップに向けて

花いっぱい運動や寄せ植えコンテストを通じて、市民に緑を身近に感じてもらうことができました。今後も自然や緑に関心を持ってもらうためのイベントや事業も継続し、里山保全や緑化の推進に取り組んでいきます。

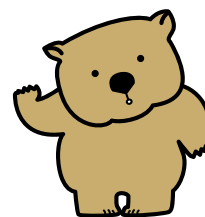


5. 人にやさしいまちづくりを進めよう

●重点的な取り組み「だれもがいきいきと暮らせるまちづくり」

2019年度も、地域分権制度やまちづくり出前講座などを引き続き実施し、活力あるコミュニティづくりを推進しました。

また、各種環境測定を実施し、健康で安心して暮らせるまちづくりに取り組みました。



例年掲載しております「スポーツ GOMI 拾い」については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止いたしました。

●この分野での指標や取り組み

微小粒子状物質（PM2.5）の測定

（環境政策課）

2012年4月から、神田大気観測局にて微小粒子状物質（PM2.5）の測定を開始しました。測定結果の速報値は、池田市のホームページ（<http://kankyo-ikeda.jp>）で見ることができます。

なお、2014年4月からは神田大気観測局に加えて、大阪府が設置している南畑会館測定局でのデータも同ページで公開しています。

PM2.5の環境基準には短期基準と長期基準の2つがあり、この両方を満たすことが環境基準への適合となりますが、2019年度も両方の基準を満たし、環境基準に適合しました。

おおさか防災ネットQRコード
< touroku@osaka-bousai.net >



←携帯電話でおおさか防災ネットに受信申し込みをすれば、PM2.5が高濃度になると予測されたときにメールが配信されます。

*PM2.5とは、大気中に浮遊する粒子状物質のうち、粒径が $2.5\mu\text{m}$ （ $=0.0025\text{mm}$ ）以下の微小な粒子のことです。粒径が小さいため（髪の毛の1/30程度）、肺の奥深くまで入りやすく、健康被害が懸念されます。発生源はボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設や自動車等の人為起源のものと、土壌、海洋等の自然起源のものがあります。

< 環境基準 >

1年平均値 $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下（長期基準）かつ、1日平均値の年間98%値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下（短期基準）であること。

μ ：マイクロ。1 μg =1,000,000分の1g

神田大気観測局測定結果

年度	年平均値	有効測定日数 日	日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		日平均値の年間98%値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	日平均値の最高値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	環境基準適合状況	
	$\mu\text{g}/\text{m}^3$		日	%			短期	長期
2013	16.2	365	14	3.8	37.5	55.2	×	×
2014	15.1	363	7	1.9	33.2	47.9	○	×
2015	14.0	364	7	1.9	35.0	39.5	○	○
2016	12.2	363	0	0.0	28.1	61.0	○	○
2017	12.9	363	1	0.3	30.0	41.9	○	○
2018	12.5	362	0	0.0	28.4	33.4	○	○
2019	11.1	363	1	0.3	29.9	50.1	○	○

池田市レジ袋削減等3R推進協議会

(池田市レジ袋削減等3R推進協議会)

市立小中学校生を対象に3R促進をテーマとしたポスターコンクールを実施し、117点の応募がありました。いずれも素晴らしい作品でしたが、特に評価の高い20点を選出し表彰しました。

池いけ祭りが開催された令和元年10月26・27日には、石橋駅前公園等において参加者の方々にエコバッグを配布し、本協議会の目的であるレジ袋削減及びマイバッグ持参促進を啓発しました。



さつき展・農業祭

(農政課)

市花である「さつき」について広く市民に知っていただくとともに、栽培技術及び緑化の推進並びに地場産業のPRを行うため、5月に池田市さつき展を実施し、人気投票を含めたさつきの展示及び花きの即売会等を実施しました。

また、11月には、市内各地の農業生産物の紹介及び即売会等のイベントを行う池田市農業祭を実施し、多くの方で賑わいました。



文化財公開ウォーキング

(池田市教育委員会)

市内に所在する指定文化財をはじめとする文化財や史跡を一般に広く公開・見学することにより、文化財や歴史に対する愛護思想の普及啓発を図るため、市内の文化財を見て歩く「文化財公開ウォーキング」を実施しました。

2019年度は西光寺、伊居太神社、池田市立桃園墓地、八坂神社の4ヶ所を中心に巡り、50名の方に参加いただきました。



次のステップに向けて

この分野は、自然環境だけにとどまらず、地域の活性化やまちづくりなど、より広い意味での「環境」施策と繋がっています。

今後も連携を継続するとともに、地域も巻き込んだ取り組みへと展開し、地域の活性化へも繋げていきます。



Ⅲ. 環境指標

環境目標像の実現に向けて、『池田市新環境基本計画』の進捗状況（進み具合）を測るものさしとなるものが「環境指標」です。

この計画では8つの環境指標を設定しており、それぞれの進捗状況は次のとおりです。

今年一年の進捗： 大きく進む まあまあ進む 停滞済み

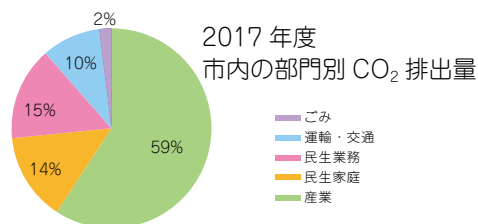
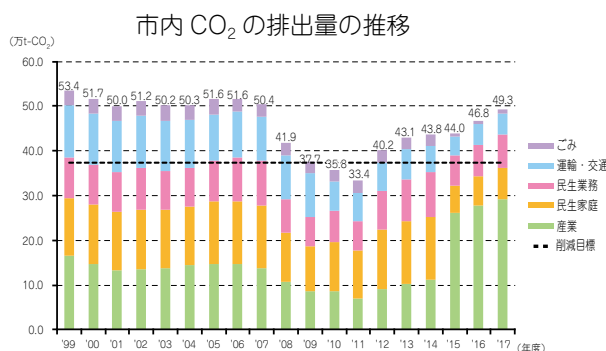
— 30%をめざす！

2017年度 -8.7%

①市内の温室効果ガス排出量

この指標は、池田市内の温室効果ガス排出量を、2020年度までに1999年度比で30%削減を目指すものです。

2017年度は基準年と比べると約8.7%の削減となりましたが、環境目標像の実現に向けて、COOL CHOICE（省エネ型の製品・サービスやライフスタイルの選択を推進する国民運動）の普及啓発を図るなど、市全体での温室効果ガス排出量削減を継続して推進します。



※環境省 地方公共団体実行計画策定・実施支援サイト「部門別CO₂排出量の現状推計」を準用して算定

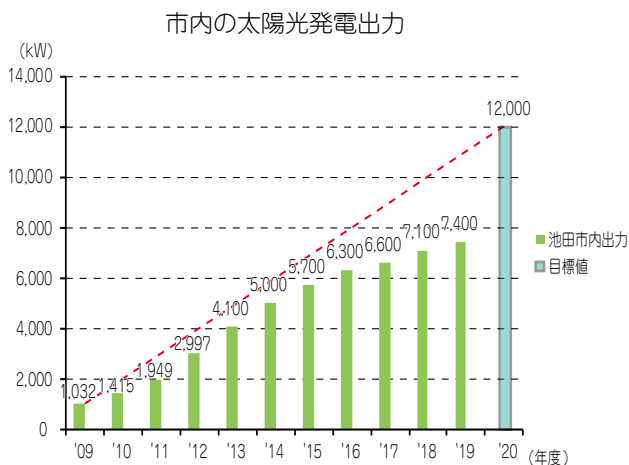
12,000 kWをめざす！

2019年度 +300kW

②市内の太陽光発電出力

この指標は、池田市内の太陽光発電出力が、2020年度までに12,000kWとなることをめざすものです。

2019年度は前年度に比べて約300kW増加しました。2014年度には国による太陽光発電システムに係る補助制度が終了し、固定価格買取制度に基づく電力も減少傾向にありますが、引き続き補助制度の継続や広報などを通じて普及拡大を目指します。



— 20% をめざす！

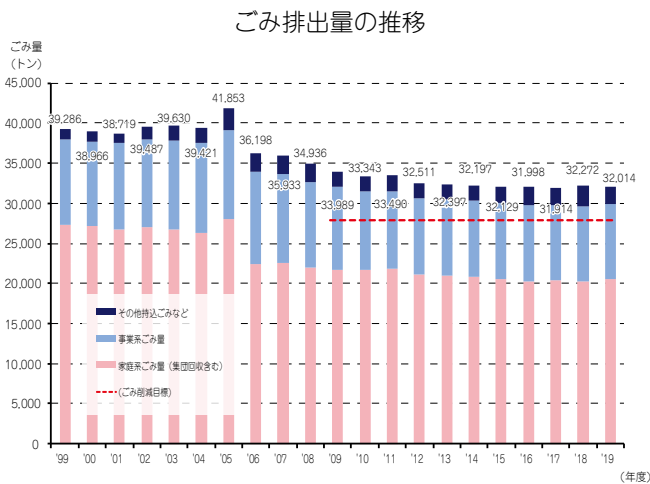
2019年度 -8.4%

③市内のごみ排出量

この指標は、市内のごみ排出量（クリーンセンターに持ち込まれる各種ごみ）を、2020年度までに2008年度比で20%削減することをめざすものです。

2019年度の排出量は前年度から258トン減少し、32,014トンとなっています。2008年度比では8.4%（前年度は7.6%）削減され、目標の20%削減に少し近づきました。

2017年度以降増加傾向にある家庭ごみを中心に、今後もさらなる減量を目指し3Rの取組を進めます。



— 20% をめざす！

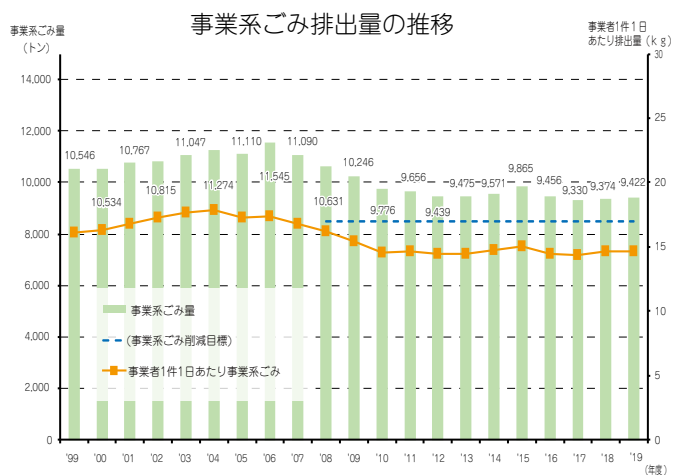
2019年度 -11.4%

④市内の事業系ごみ排出量

この指標は、市内事業者から排出される事業系ごみ（一般廃棄物）排出量を、2020年度までに2008年度比で20%削減することをめざすものです。

2019年度の排出量は前年度から48トン増加し、9,422トンとなっています。2008年度比では11.4%（前年度は11.8%）削減されましたが、目標の20%削減から少し遠ざかる結果となりました。

景気の状態にも左右されますが、多量排出事業者制度による取組を進め、減量を目指します。



リサイクル率は20%！

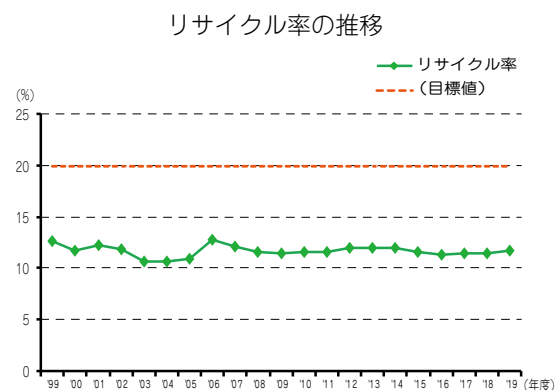
2019年度 11.7%

⑤市内のリサイクル率

廃棄物の中には、処分前に分別回収することで再度資源として活用できるものがあります。この指標は、2020年度までにリサイクル率を20%にすることをめざすものです。

2019年度の資源化量は前年度から57トン増加して3,737トンに、リサイクル率は前年度から0.3%上昇して11.7%となっています。

資源物の半分近くが地域の各種団体による集団回収で集められているため、今後も集団回収実施団体の増加を目指します。



20%以上をキープする！

2017年度 16.9%

⑥市内のまちの緑被率

市街地の実質的なみどりの総量を測ることを目的に、空中写真の解析へと手法を変え、2017年度に池田市独自で調査し、16.9%(市街化区域)であることが把握できました。「まちの緑被率(市街化区域の緑被率)」20%の維持が目標です。

一定規模以上の開発にあたっては緑化協定を、風致地区では基準の遵守に努めていただくとともに、みどりの風促進事業や花いっぱい運動なども推進し、緑豊かなまちづくりを進めていきます。

まちの緑被率調査結果

	対象区域 (万㎡)	緑被面積 (万㎡)	緑被率 (%)
市全体	2,209	1142.1	51.7
市街化区域	1,088	183.9	16.9
市街化調整区域	1,121	956.2	85.3



1年に40地点実施する！

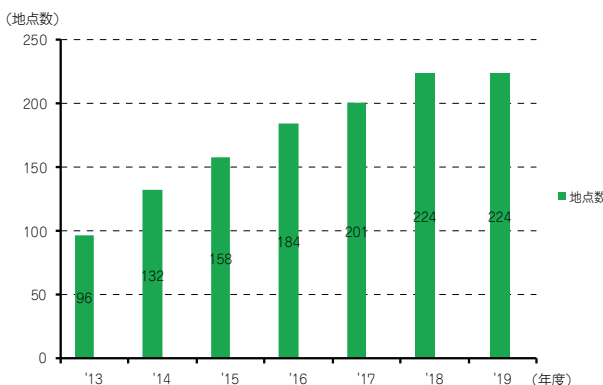
2019年度 224地点

⑦市内のまちかどの緑視率調査地点数

緑視率とは、交差点などのまちかどに立った人の視界に入ってくる、植物の緑の割合のことです。この指標は、学校などに協力を求めて、2011年度から5年間で計200地点(2010年度に全市的に調査した地点数)の緑視率調査の実施をめざしたものです。

2017年度で目標は達成となりましたが、今後も出前授業の一つとして継続していきます。

市内のまちかどの緑視率調査



地域戦略をつくって取り組む！

調査研究を継続実施

⑧市内の生物多様性を示す指標

現在、生物多様性に関する取り組みについて、関係団体と協働して、生物多様性の情報収集や調査、研究などを継続して実施しています。





南北 10.28km

東西 3.82km



保存樹木・樹林とは…

健全かつ美観上特にすぐれている樹木又は樹林で、下記の条件を満たしているものを指します。

【保存樹木 (次のいずれかを満たすもの)】

- ・地上 1.5 m の高さにおける幹の周囲が 1.5 m 以上
- ・高さが 15 m 以上

【保存樹林】

その集団が生息する土地の面積が 1,000 m² 以上のもの

※池田市環境保全条例施行規則 一部抜粋

● 保存樹木
■ 保存樹林 (2019年度末現在)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

エスディーゼイズ

知ってる？ SDGs

2015年9月の国連サミットにおいて採択された、2016年から2030年までの国際目標です。

気候変動や格差など幅広い課題の解決をめざしています。



<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です</p>